





~企業研修型プログラムを「水俣」で~

令和6年(2024年)12月17日 水俣市 観光戦略課

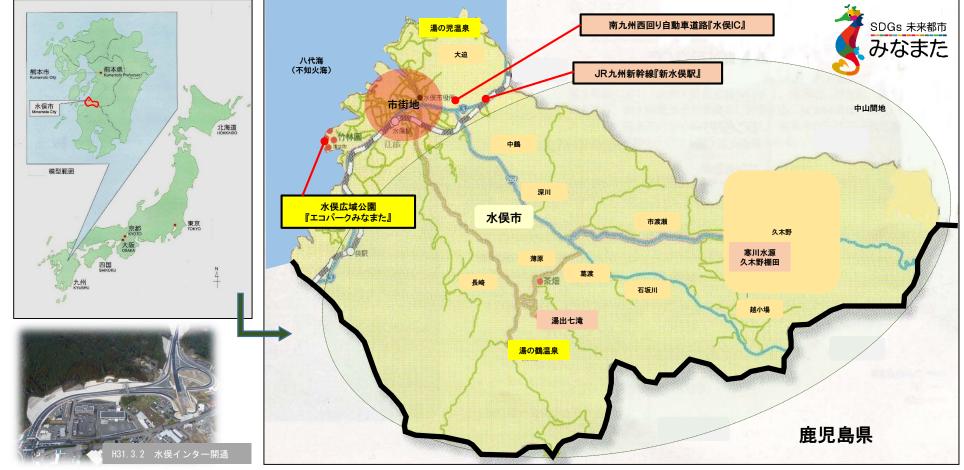
水俣市の概要

九州南西部、熊本県の最南端に位置し、南は鹿児島県と接している

- ■面積 162.88 km (東西22.4 km 南北13.8 km)
- ■人口 21,835人(高齢化率 約42.9%)
- ■世帯 11,086世帯(2024年6月末現在)

* 2020年7月SDGs未来都市に選定*





最近のトピック

令和4年10月に「国民保養温泉地」の指定を受けました。



湯の児

海の温泉





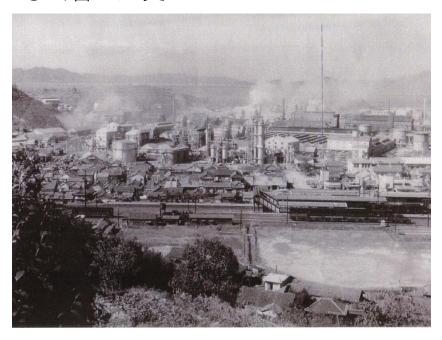
湯の鶴

山の温泉





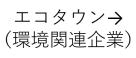
●公害の歴史

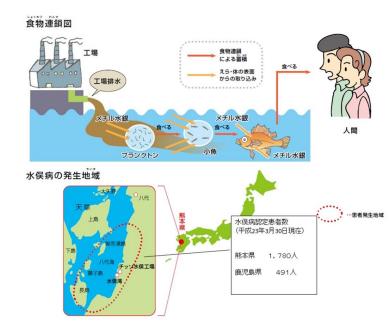


●先進的な環境の取組



←ごみの高度分別 (24種類)







水俣ワーケーションとは



地域の魅力に触れながら、ともに課題解決や個々の自立を目指すワーケーション











- 1 水俣市の観光資源(湯の児温泉・湯の鶴温泉)を拠点として―
- 2 半日はワークの時間、半日は地域住民や地域の事業者とともに一
- 3 参加者(企業の皆様)に水俣市のSDGsに係る取組みや目の前にある地域特有の困り ごとなどを体験—
- 4 日常から離れた地域で、環境と地域との関わり、自分自身を見つめる―



プログラム検証のためのモニターツアーを計3回開催(令和5年9月、11月、2月)

【プログラムの一例】

- 水俣病の歴史と再生への歩み、資源循環について水俣で学ぶ。
- 地域の自治会とともに登山道(湯出七滝散策路)を整備
- 後継者が不足している温泉街の竹あかり製作を体験
- **再生した水俣の海で地元インストラクターとともにマリンアクティビティを体験**
- 新規就農者との農作業を通して新たな関係性構築やキャリアビジョンを見つめる
- **ネイチャーシェアリングを通して視点を変える(感覚を研ぎ澄ます)**

まだまだ地域プログラムの掘り起こしを継続中・・・









水俣ワーケーションは新聞や経済紙に取り上げられました!



2023.12月号くまもと経済





水俣ワーケーションは新聞や経済紙に取り上げられました!

2014.12.7 熊日

水俣で研修、余暇楽しんで

企業向けツアー始まる

水俣市は2024年度、企業 研修型のワーケーションツ アーを始めた。11月に3泊 4日の日程で実施したツア 一には、熊本県内外の企業 から4人が参加。農業や自 然体験をはじめ、環境関連 事業者や地域住民との交流 を通じて、将来のキャリア

水俣市

形成のヒントを探った。

水俣市は昨年3月に策定 した市観光振興計画に、余 眼を楽しみながら働くワー ケーション推進を盛り込ん だ。同9月にはモニターツ アーを実施。参加者の意見 を基にプラン検討を進め、 本年度から有料化した。

=11月14日、 から話を

11月のツアーは参加者が 湯の鶴温泉に宿泊。非食用 米から生分解性プラスチッ クを作るバイオマスレジン の取り組みを学んだほか、 かんきつ農家の富森識弘さ ん(45)の農園で石積みを補 強するフェンス張りなどを 手伝った。恋路島周辺のシ ーカヤック体験、水俣病資 料館の見学もあった。

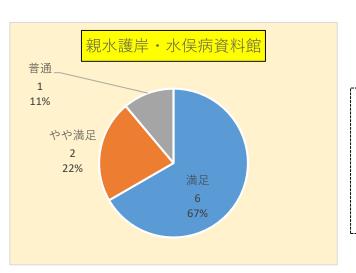
ユナイテッドトヨタ熊本 の田中開さん(29)は「不要 なものから価値を生み出す 考え方や『人を喜ばせたい』 という思いに刺激を受け た。仕事を通じてどう社会 貢献できるか考えていきた い」と話した。

10月には過疎化が進む山 間部の散策路の保全作業体 験が柱のツアーを実施。市 は「今後も内容に磨きをか け、多くの企業に水俣ワー ケーションを知ってもらう ようPRにも力を入れる」 としている。

(久保田尚之)



モニターツアー参加者アンケート結果(抜粋)



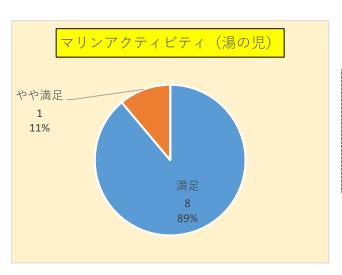
- ・水俣病の被害や人権問題を改めて学ぶことができた。また、埋立地を公園 やスポーツ施設として市民が利用できる公共の場となっていることに驚いた。
- ・リグラスロードを実際に見ることができ、水俣市の環境問題への意識の高さ を実感した。
- ・水俣市が水俣病と向き合って未来へ進んでいくというメッセージを感じた。

みなまたエコタウン視察 満足 9 100%

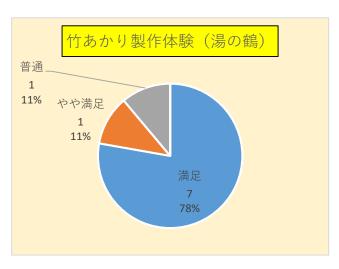
- ・環境に配慮しながら、資源と経済を循環させるという田中社長の考え方に感 銘を受けた。エコも地域活性化の一つになり得るという気付きを得た。
- ・見学した工場は、環境に配慮した地域づくりにおいてトップランナーである 水俣市の象徴のような施設だった。SDGsの推進において地域課題を解決する ためには産学官金の連携が不可欠であることがよく理解できた。
- ・企業や個人の関わりしろの創出として、リグラスやリユースのアイデアコン ペなどができたら面白いのではないかと感じた。



モニターツアー参加者アンケート結果(抜粋)



- ・汚染された過去が想像できないくらいきれいな海に入ることができた。(今まで訪れた海で1番きれいでした。)初めてのSUP体験で貴重な経験となった。
- ・湯の児の海があんなにも綺麗だとは思わなかった。また、海に関わる方々の 熱い思いに実際に触れることができたことも良かった。



- ・**竹あかり体験が廃校で行われたのがすごく良かった**。童心に帰った感覚となり、一段と楽しさが増した。過去に街中で体験した竹あかり製作体験とはまた違った魅力を感じた。
- ・一方で、竹林の管理という視点も課題であるとの話であったため、湯の鶴エリアならではの竹林活用やイベントができればと感じた。
- ・自治会自ら取り組んでいることや困りごとの内容を実際に聞く機会として大 変有意義だった。
- ・地域との交流をもう少しメインとするのか、何かしらの要素をプラスして、 体験のみに留まらない形になるとベターだと感じた。



新たなプログラムの検討(その1)

●地方自治体が直面する課題(農業分野)

- ・農家の高齢化、担い手不足、新規就農者の確保、耕作放棄地の増加等
- ・農産品のブランド化
- ・道の駅の活性化



富森 識弘様 (TOMIMORI SITRUS GARDEN 代表)

熊本県大津町出身。高校卒業から約20年間熊本を離れて、 石油会社で勤務(日本各地、タイやインド等) 「子供達や若い世代に繋げる仕事がもっとあるのではないか」 「生まれ育った熊本県に貢献したい」と考え、農家になる道を選択。 就農する前に勉強を兼ねて、3年程度農業ベンチャーの会社にも勤務。 2022年8月に地元の農家さん(85歳)からデコポン畑を受け継ぎ、新規就農。

「未永くかつ子供の世代に受け継ぐ産業として農業を選んだ」











新たなプログラムの検討(その2)

●地方自治体が直面する課題(環境・観光分野)

- •環境保全
- ・公有財産の管理
- ・観光資源の掘り起こし



杉本 崇様 (アウトドアショップ海岳 代表)

- · 熊本県水俣市出身
 - ・NPO法人おもいでつくる水俣 代表理事
 - ・ (公社) 日本シェアリングネイチャー協会会員 (熊本県内で唯一トレーナーの資格を所持)
 - ・水俣病学習から自然体験まで多岐にわたるプログ ラムの講師
 - ・海のシーカヤック、山のトレッキング等のインス トラクター











令和6年度は、研修テーマとして「地域課題解決」編、「キャリア自律」編を実施

「地域課題解決」編

2024 10/1 (火) ~10/4 (金)

1日目 ●水俣病資料館・親水護岸見学

●みなまたエコタウン視察 (びんのリユース・リサイクル工場)

○懇親会

2日目 ●マリンアクティビティ体験 (湯の児)

マワーク





(湯の鶴)

ノワーク

○懇親会









4日目 ●総括ワークショップ



令和6年度は、研修テーマとして「地域課題解決」編、「キャリア自律」編を実施

「キャリア自律」編

2024 11/12 (火) ~11/15 (金)

1日目 ●水俣病資料館・親水護岸見学

●みなまたエコタウン視察 (古米再生プラスチック工場)

○懇親会

2日目 マワーク

●ネイチャープログラム体験 (エコパーク水俣・恋路島)

3日目 ●就農者の課題を学ぶ農業体験 (新規就農者の農園)

☑ワーク

○懇親会

4日目 ●総括ワークショップ















ワーケーションを通した地域との関係創出

- ●地元自治会関係者
- ●新規就農者(せしかう会) ●エコタウン企業関係者











水俣ワーケーションから生まれたビジネスマッチング

- ☑水俣市、金融機関等による地域脱炭素社会の実現及び地域活性化に向けた包括 連携協定の締結
- ☑通信サービス事業者におけるスポーツスタジアムへの古米プラスチック(ライスレジン)を原料とした製品の導入検討
- ✓製薬会社のスポーツ飲料の一部協賛による水俣市内のスポーツイベントにおけるPR
- ✓金融機関本社(福岡市天神)における水俣市観光PR計画
- ✓地域コンサルティング会社における水俣市スクールバス運行管理用アプリの 開発検討
- ☑百貨店(福岡市天神)の主催イベントにおいて、新規就農者が物産イベントに 出展
- ✓住宅設備会社による湯の鶴地区における空き家の民泊化支援検討



令和6年度~各企業の研修等、様々なニーズに応じた研修プログラム造成が可能です

●企業の皆様に向けて

- ・自社のSDGsの取組みが強化できる。
- ・社員のやる気を高める、チームビル ディングを強化することができる。
- ・地域との交流を創出できる。
- ・社員の福利厚生を充実させる。

●自治体(水俣市)がワーケーションを主導するメ リット

- ・地域の実情に沿った、より<mark>リアル</mark>なプログラムが体験できる。
- ・水俣の特色を踏まえた関係者と交流ができる。

●参加いただく社員の方に向けて

- ・リアルな地域の課題を学べる。
- ・地域関係者との交流が創出できる。
- ・非日常の環境でワークに取り組むことで、リフレッシュができ、新たな気づきを得られる。
- ・期間中に得た学びを、関係者へプレゼンすることで、自己のスキル向上ができる。

※異業種交流型のプログラムを実施!!

